

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 19 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320051

研究課題名(和文) 日本古典籍の統合的書誌データベースの公開と活用の研究

研究課題名(英文) The study on the making public and the utilization of the integrated data base about Japanese classic books

研究代表者

塩村 耕 (SHIOMURA, Ko)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：80178855

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本を代表する古典籍専門図書館である西尾市岩瀬文庫について、全所蔵資料の約95%について調査を終了し、書誌データベースを作成し、公開運用した。このような詳細な書誌データベースは日本でこれまで例がなく、その新たな学術基盤としての有効性を実証した。同時にデータベースより得られた知見を活用して、重要資料を選定し、全文テキストデータを作成して、データベースにリンクさせた。また、名家自筆本を選定し、筆蹟サンプル画像データを作成して、データベースにリンクさせた。このような統合型データベースを実験的に公開運用し、日本の人文学の新たな学術基盤のあり方として世の中に提案した。

研究成果の概要(英文)：Iwase Bunko library is the treasury of the classic books which represents Japan. We ended about 95% of investigation of all the books, created and made public the bibliography data base. In Japan, there was not an example in such a detailed bibliography data base so far and we proved effectivity as the new basis of the humanities. Also, we utilized the data base and chose important books, and created full text data and made link it to the data base. Moreover, we chose the books of the handwriting of the flagrant authors, and created handwriting sample image data and made link it to the data base. We proposed such an integrated data base as the new basis of the humanities in Japan.

研究分野：日本文学

キーワード：近世文学 図書館情報学 書誌学 出版史

1. 研究開始当初の背景

人類の遺した文化資産の中で、最も重要なものは書物である。そして、日本は歴史的に識字率が高かったこと、写本時代が比較的に長かったことのために、多くの階層の人々が書物の製作と享受に関わった結果、膨大な量の書物が遺された。日本は、世界の中でも類を見ない書物の国といえることができる。しかしながら、維新以後の近代化の過程で、封建の時代であった江戸期の記憶は軽視され、変体仮名や草書を捨てるという書記方法の変革も相まって、維新以前に成った古典籍は国民の生活から縁遠いものとなり、現在に至っている。

あらゆる意味で混迷を深めている現代社会にあって、過去の日本人による達成を精密なレベルで再評価し、日本の近代化を見直すことは、今後、第一にたどるべき道筋であるように思われる。そのためには、大量に残された古典籍の実態を解明し、最大限に活用することが必要である。

さいわいコンピュータの機能とウェブサイト環境が発達し、古典籍の精細な画像を用いた比較研究や、種々のデータベースによる書誌・人物情報の検索を行うことが可能となり、それらは先人のかつて知らなかった便利な道具として、書物の研究と利用の方法の相を急速に変えつつある。

2. 研究の目的

そのような状況の中で、本研究計画の究極の目的は、日本の古典籍をめぐる学術基盤を画期的に引き上げることにある。そのために、西尾市岩瀬文庫を主なフィールドとして、新たな統合的データベースを作り上げ、それを世の利用に供することを通して、その有効性を提案した。

岩瀬文庫は日本有数の豊富な古典籍の文庫で、その蔵書はあらゆる分野を網羅しており、上記のような学術基盤のあり方を模索する場として最も適している。また、岩瀬文庫は古典籍の総点数が2万点以上と、収蔵量が膨大である。日本の古典籍の総点数は50万点とされており、その中にあって、十分に存在感を示す点数となっている。岩瀬文庫での達成は、将来整備が期待される、日本の全古典籍のデータベース化事業のために、質の上でも、量の上でも貢献しうるものである。

3. 研究の方法

日本の古典籍は、序や跋を備えるなど、第三者（特に後世人）が見ることを予期したような、書物としての「型」を備えた「書籍的資料」だけでなく、第三者（特に後世人）が見ることを予期していない「文書的資料」が多い。また、書物の製作や書写に關する階層が広く、伝統的学問や雅文芸の分野のみならず、私的な著述や俗文芸の資料が多い。そして、歴史的に見て強大な政権がなかったために、統一的な定本を作ろうという意志が希

薄で、テキストの多様性に対して寛容であり、同一書でも異本が多く残されている。したがって、漢籍目録の方式に基づく、従来型の簡略な書誌目録では日本の豊かな書物文化に対応することが出来ない。

そのために、個々の資料について緻密な調査を行い、序跋や刊記・奥書・書写識語など成立に関する情報、内容に関する情報、装丁や書写・印刷の態様など形態に関する情報、蔵書印や後人の識語など伝来に関する情報、以上の諸点について、詳細に書き込んだ「記述的」書誌データベースの方式を作り上げ、データを積み上げた。これによって、人名や資料名、旧蔵印、要語など、さまざまな文字列について検索をかけることにより、ばらばらに存在する資料の間に連関を見出すことが初めて可能となった。

さらに、文字列の情報だけでは把握出来ない、古典籍の持つもう一つの重要な要素である、書物の書写者の筆蹟について、画像データ（PDFファイル）を用意し、書誌データベースにリンクさせた。幸い、岩瀬文庫は数だけを集めるというような乱暴な収書ではなく、重複資料を慎重に排除する方針によって、珍しい資料を収集したため、結果的に多くの人々の自筆資料を大量に集めている。そのために筆蹟サンプルデータベースとして、今後日本の人文学に貢献すると思われる。

また、重要資料については、全文テキスト・データ（テキスト付きのPDFファイル）を用意し、やはり書誌データベースにリンクさせた。これは、くずし字読解の困難な利用者が読書出来るように配慮すると同時に、将来的に整備が必須と思われる、日本の全古典籍の全文データベースに貢献することを期待している。

4. 研究成果

以上の通り、詳細な記述的書誌データベースに、重要資料の筆蹟サンプル画像データと、全文テキスト・データをリンクさせた統合的書誌データベースを作り上げ、公開した。これらは日本で初めての試みである。その有効性は明白で、今後、日本の人文学の調査研究を進める上で、不可欠の道具となる筈である。また、文庫を運営する上でも、データベースは情報を発信し続け、その時々の人々の要求に応えることにより、文庫の活性化を永続させるであろう。さらに、古典籍を保存する日本中の文庫や図書館が、今後何らかの書誌データベースを備えることが期待され、また実際にそのようになりつつあるが、その際に岩瀬文庫や名古屋大学でのデータベースの実践事例が参考となるものと思われる。

その上で、新たな課題も顕在化しつつある。一つは古典籍の画像データベースの問題である。数年前より、国会図書館と早稲田大学図書館をはじめとして、基本的に著作権のない古典籍の画像データベースが急速に整備されつつある。実はわれわれが携わってきた

ような大量の古典籍の書誌調査作業においてこそ、それらの画像データベースは比較資料としてたいへん参考になるものであり、甚大な裨益を受けてきた。それでは全ての文庫図書館に同様の画像データベースが備わればよいのかというと、疑問を感ずるのである。日本の人文学の発展のためには、詳細な書誌データベースや全文テキスト・データベースの充実の方が、必要度が高いと思われる。

しかしながら、われわれの実践の例が物語るように、詳細な書誌データベースと全文テキスト・データベースは余りにも時間と労力

しかも資金ではカバー出来ないような種類のそれを要するという、現代社会にあって致命的ともいえるべき問題がある。多くの人文学研究者、具体的には近世ないし中世の日本文学研究者が、研究者としての人生の一部を割いて、同様の学術基盤の向上に何らかの貢献をしてくれることが望ましい。

さて、上記データベースが本研究計画の最大の研究成果であるが、もう一つ、副産物的な成果として、『愛知県史 別編 文化財 4 典籍』がある。同書は世にある県史・市町村史の中でおそらく初めて、典籍だけで一巻を成したもので、研究分担者である阿部泰郎氏が責任編者である。塩村は岩瀬文庫の概論と同文庫所蔵の愛知県関係の重要資料を紹介する個別典籍、および名古屋大学神宮皇学館文庫の概論を担当した。それらは、悉皆調査の経験と書誌データベースの整備を経て初めて判明する事実に基づき記述している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

塩村 耕、大身旗本の俳諧日記『都の伝』について、日本古書通信、査読無、1027 号、2015、pp.2-4、

塩村 耕、最近の収獲から 屁の本二題、日本古書通信、査読無、1022 号、2014、pp.2-4、

塩村 耕、文化の潮境に ふみ は残る(講演抄録) 愛知県史研究、査読無、18 号、2014、pp.6-13、

http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/000046/46945/18_shiomura.pdf

塩村 耕、ある愛書家大名の蒐集自叙伝、日本古書通信、査読無、1005 号、2013、pp.4-6、

塩村 耕、朝鮮本古典籍返還の件を機に書物について考える、レポート笠間、査読無、55 号、2012、pp.54-56、

http://kasamashoin.jp/2013/01/53_4.html

塩村 耕、奥の細道むすびの地記念館が大垣の宝となる日、大垣市文化財保護協会会報、

査読無、36 号、2012、pp.29-31、

塩村 耕、古書資料の完全活用をめざして：岩瀬文庫書誌 DB の成果と課題(講演録)、中部図書館情報学会誌、査読無、52 号、2012、pp.1-19、

塩村 耕、岩瀬文庫で教えられたこと(講演録)、斯道文庫論集、査読無、46 号、2012、pp.5-21、

http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20110000-0005

塩村 耕、岩瀬文庫にあった足利学校関連資料、日本古書通信、査読無、981 号、2011、pp.5-7、

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 7 件)

阿部 泰郎、塩村 耕 他、愛知県、愛知県史 別編 文化財 4 典籍、2015、790 (691-734、746-747)

塩村 耕編、風媒社、文学部の逆襲、2015、89

塩村 耕、西尾市岩瀬文庫、こんな本があった！岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展 12、2015、19

塩村 耕、西尾市岩瀬文庫、こんな本があった！岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展 11、2014、22

塩村 耕、西尾市岩瀬文庫、こんな本があった！岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展 10、2013、22

塩村 耕 他、愛知県、愛知県史 資料編 20 学芸、2012、1006 (304-449)

塩村 耕、西尾市岩瀬文庫、こんな本があった！岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展 9、2012、22

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

西尾市岩瀬文庫ホームページ（右上に書誌データベースの入り口）

<http://www.city.nishio.aichi.jp/nishio/kaforuda/40iwase/index.html>

名古屋大学附属図書館・古典籍内容記述的データベース

<http://libst1.nul.nagoya-u.ac.jp/wakan/index.html>

6．研究組織

(1)研究代表者

塩村 耕 (SHIOMURA, Ko)

名古屋大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号： 8 0 1 7 8 8 5 5

(2)研究分担者

阿部 泰郎 (ABE, Yasuro)

名古屋大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号： 6 0 1 9 3 0 0 9

(3)連携研究者

()

研究者番号：